

+

結核しずおか

5号2001年1月25日

発行所

財団法人結核予防会静岡県支部

〒420-0915

静岡市南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

発行責任者 花崎敏行

印刷 三協印刷株式会社



(写真提供 富士市、一条義明氏)

年頭所感

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

年の初めにあたり、日頃当支部の事業が県、市町村、医師会、学校、をはじめとする関係各位の御指導、御協力、により、順調に進展し、お陰様で県民の皆様の健康にいささかなりともお役に立つことが出来ました事を深く感謝申し上げます。

いよいよ21世紀の幕開けです。今世紀は「人、もの、情報」が地球規模で活発に行き交う大交流時代といわれております。

こうした中で、私は、誰もが快適と感じる「快適空間しずおか」の実現を目指して、皆様と共に考え、共に行動して参りたいと考えております。

本年は、新世紀のふさわしいイベントとして、街道の歴史と文化を生かした「東海道400年祭」をはじめ「2001年しずおか緑・花・祭」、「世界お茶まつり」、「全国豊かな海づくり大会」など、本県の魅力を高め、将来の地域づくりにつながる多彩なイベントを皆様の協力と参加によって展開してまいります。

さらに、本年春には、ワールドサッカー大会会場となる「エコパ」の開園をはじめ、静岡空港、第2東名など活発な交流を支える社会資本の整備を着実に進めるとともに、がんセンター整備や健康づくり運動など生活に密着した社会システムを充実していくことにより、誰もが生き生きと活躍でき、国内外から多くの人々が訪れる魅力ある地域づくりに取り組んでまいります。

また、当支部と致しましては、県の御指導、御協力のもとにキャンペーンや「県結核予防大会」等あらゆる機会を通じて県民への普及啓発を進めるとともに健康診断や各種施策・事業を積極的に推進する等今以上に結核予防に努めてまいる所存であります。

今後も、結核予防会静岡県支部の活動に対しまして、一層の御理解、御協力、御支援等を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年1月



財団法人結核予防会静岡県支部

支部長 石川 嘉延

(静岡県知事)

新健診システムの導入について

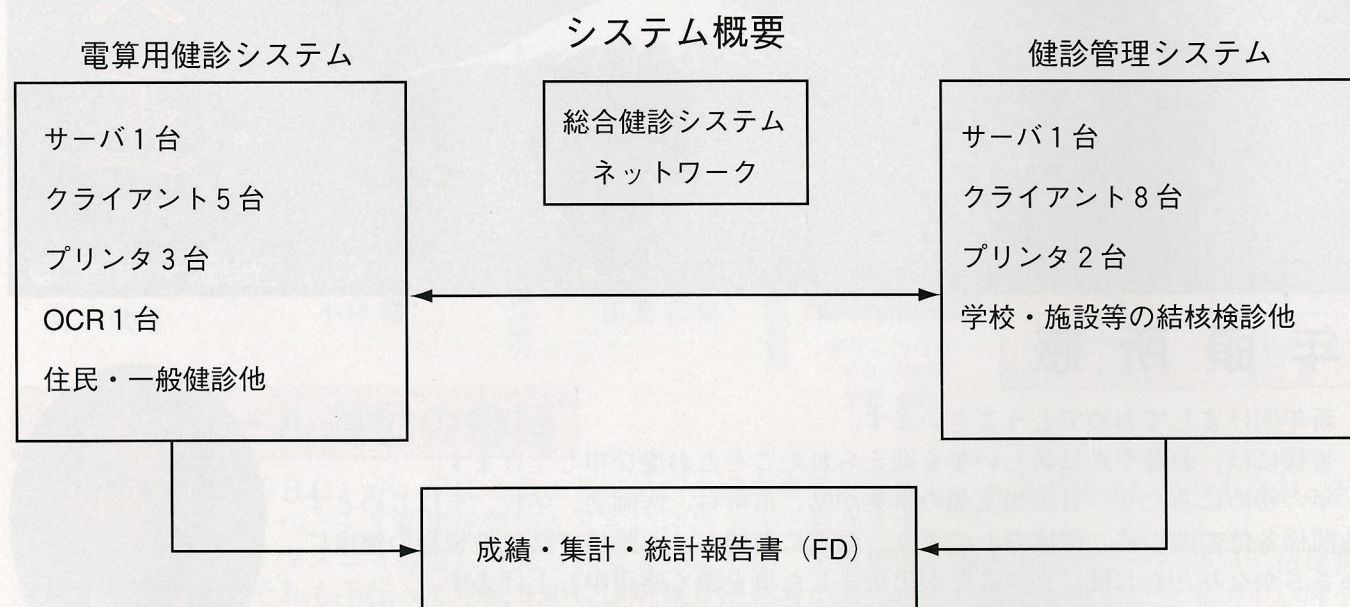
健診システムに対するニーズが多様化してきている今日、当支部ではこれからどのような健診システムが必要か平成10年度より各支部の視察や検討会などを行なってきました。

その中で、従来のオフコンでは操作性・集計・統計等の柔軟性がなく、非常に取り扱いが難しかったのが一番問題になりました。このことが、改善できればと思い導入しました。

新システムは（平成13年4月より）、パソコン（サーバ）を用い市町村・学校・事業所等の個別のニーズに合わせられる成績表・一覧表・統計が可能で必要に応じてはFD（フロッピー）で対応することもでき、その上、団体間のEメールも出来るようになります。

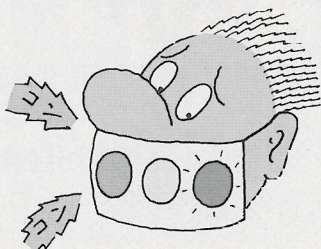
それと同時に、各健診担当者にパソコンを渡し事業報告等を入力すれば、請求業務と連動して漏れのないようになり、事務処理がスムーズになります。

将来的には、住民検診の受付処理も電算化（パソコン）する予定です。また、各支部・市町村施設等をオンラインで連結し、すばやい対応また正確なデータの提供ができれば良いと思います。



結核検診で肺癌も

早めに見つけて、きちんと治療すればほぼ治る結核に代わって、肺癌が立ちふさがっています。肺癌も早期ですと症状がなく、X線や痰の検査で見つかりません。しかし、結核と同様、いやそれ以上に肺癌こそ早期発見、早期治療が不可欠です。結核検診のフィルムで肺癌が見つかり、早期の手術をして助かったという話をよく聞きます。肺癌がどんどん増えています。結核と肺癌を併せて予防、そのための検診をお忘れなく。



長びくせきは赤信号

「今年の風邪はたちが悪い。なかなかせきが止まらない」…よく聞く話です。こんなとき一言、「早くお医者さんに診てもらいなさいよ」と注意してあげましょう。せきが2週間も続けば要注意。1カ月以上続く人からは、25人に1人の割合で結核が見つかります。せきや痰は肺癌の症状でもあります。おかしいなとおもったら早めに受診。迷っている間にも病状はどんどん進んでしまいます。



浜松市の住民検診について

今年新たに受託した、浜松市住民検診は、8月1日から開始し、一部を除き12月14日に終了しました。

初年度と言うこともあって、事前に浜松市と綿密な打ち合わせをし、実施しましたが、計画通りにいかないで多少の無理が生じたこともありましたが、概ね大過なく終了しました。

しかし、住民サービスや細部に亘って反省点も多いので来年度は、それらを踏まえて、住民サービスや受診率向上等に、より一層の努力をしてまいります。



定期外検診の状況

平成12年度の定期外検診の状況は、発病者が医者、教員等で対象者が例年に比して多く4市を、17日間、延べ20台の検診車により、総計2,664件の検診を実施しました。

1. 袋井市

期 間	会場数	間接検診者	直接検診者	検診車数延べ	備 考 (対象者)
4/1～13 (12日間)	21	1,762	131	15	幼、小学、一般 ツ反 2,195

2. 浜松市

期 間	会場数	間接検診者	直接検診者	検診車数延べ	備 考 (対象者)
9/18～29 (3日間)	3		465	3	小学2、3、4、6年生、教職員

3. 湖西市

期 間	会場数	間接検診者	直接検診者	検診車数延べ	備 考 (対象者)
10/10 (1日間)	1		42	1	一般 (会社)

4. 浜松市

期 間	会場数	間接検診者	直接検診者	検診車数延べ	備 考 (対象者)
11/17 (1日間)	1		264	2	中学1、2年生、高校3年生、教職員

平成12年度フィルム評価会に参加して

暖冬とは言いながら、やはり寒さを実感させる12月初旬、第16回フィルム評価会が2日間にわたって結核予防会研究所講堂において開催された。

この会は、全国の結核予防会で行っている結核・肺がん検診のX線フィルム（間接・直接）の精度管理と撮影技術の向上を目的としている。

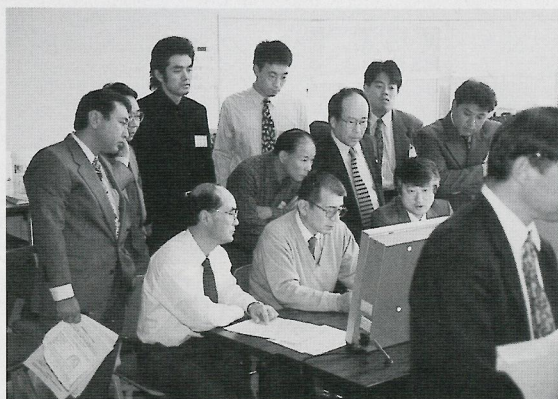
今回は、本部・支部の医師および全国から参加した診療放射線技師64名が8班（医師2名、技師5名）のチームに分かれ、各支部から提出された間接フィルム180本、直接フィルム180枚、CRフィルム20枚をA～Dまで6ランクに評価しあった。

初めての経験であったが、(1) 2日間集中して胸部写真を見ることができ大変勉強になった。(2) 肺野部、肺周辺部、縦隔部、心陰影部、横隔膜部それぞれの診断し易い適正濃度値が実感としてよくわかった。(3) 撮影ポジショニングから最後の現像処理までが、一貫してはじめて良い写真が得られること改めて理解できた。

当会のフィルム評価については、日常小林所長の指導のもと技師間で意思疎通を交わしているが、今回多くの他県技師と評価し合うことができ大変良かった。

毎日の業務は、住民のみなさんとの挨拶から始まるので、これからも撮影技術はもちろんのこと明るく親切にをモットーに今回の評価会の意義を活かしていきたい。

(技監 吉村正己)



裾野市ふれあい健康まつり

—平成12年11月19日—

静岡県東部に位置する裾野市は、「健康文化都市」をめざしており、市民も福祉活動や健康に非常に関心が高く、当福祉保健会館はその中核的役割を担っています。その会館を拠点に毎年開催されるのが「ふれあい健康まつり」です。野外の「ふれあい部門」と屋内の「健康部門」に分かれて終日各部門工夫をこらした行事が行われます。昨年から（財）結核予防会静岡県支部に市民への結核に対する啓蒙活動を、実際のレントゲンフィルムやパネルを用いて行っていただきました。今年は、昨年同様の展示に加えて、自宅や施設のベットの寝たままでもレントゲン撮影ができるポータブルの撮影機器（実物）の展示もしていただきました。実際の機械に直に触れることができるチャンスはそうないことから、市民の関心は非常に高く、予防会の方の説明に満足顔で部屋を後にしていきましました。さらに今年は屋外の「ふれあい部門」の一角で新しい検診車によるレントゲン検診も行いましたが、市民へPR不足というハンデをはね返すように検診希望者が数十名ありました。また、レントゲン車内の見学も普段は出来ないとあってか好評でした。このように、市民に対してただ検診を実施するだけでなく、フィルムや撮影機器、レントゲン車などを活用しておこなう啓蒙活動には、言葉だけ、パンフレットだけの活動に比べ深く市民の心へと響くものと考えます。21世紀を迎えた今、市民のかけがえのない健康を守る歯車の一つとして（財）結核予防会静岡県支部とともに努力を続けたいと思います。

（裾野市看護婦 渡辺亮子）



第4回はつらつ健康フェスティバル

—平成12年11月11日— 主催 静岡県総合健康センター

快晴に恵まれて開催された「はつらつ健康フェスティバル」は今年も関係機関から数多くの出展があり盛会でありました。当会も結核の感染や再発などをパネルや写真で紹介したのを始め、寝たきりの方を対象とした携帯用エックス線装置を展示しました。

特に今年は結核が増加したことに関心が寄せられ、参加者からの質問が多く寄せられました。



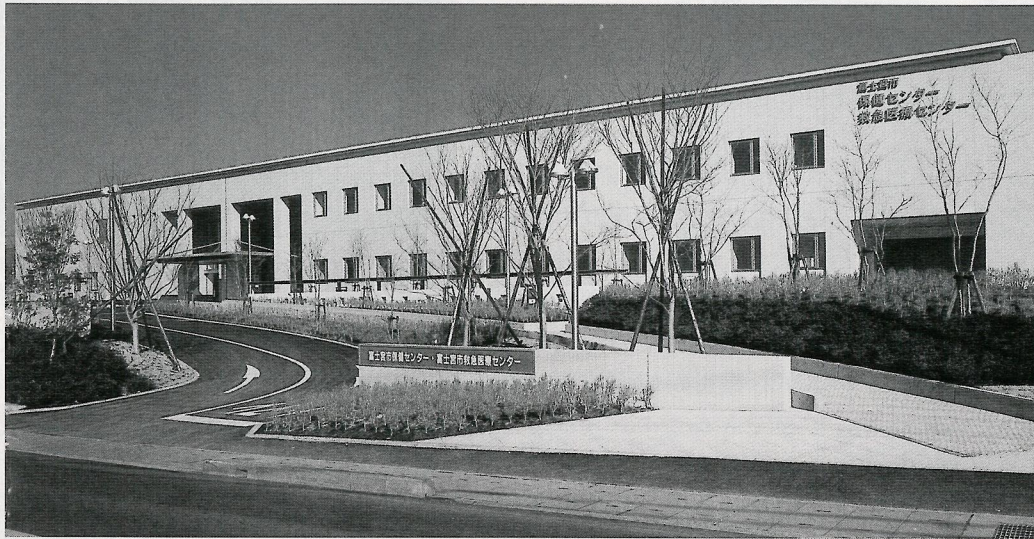
清水町健康まつり

—平成12年11月23日—

晴天に恵まれ健康まつりも住民の見学が多く昨年と同様結核、肺がんのパネル展示と間接、直接のフィルム展示、携帯X線装置を会場に設置しシール9号新車（平成12年10月）で住民検診の追加を実施しました。

特に間接、直接のフィルム展示が好評でした。

市町村保健センターの紹介



富士宮市保健センター

富士宮市保健センターは、市民の健康づくりの拠点として、平成7年4月に開館しました。場所は、市街地から車で10分程、救急医療センター、総合福祉会館も隣接し、富士宮駅からバスも出ています。

当センターでは、基本健診、胃がん、大腸がんをはじめとする各種がん検診（平成13年度から前立腺がん検診新規）胸部レントゲン検診（平成12年度から訪問結核検診を実施）骨粗鬆症検診、総合検診といった成人検診、また1歳6か月児健診、2歳児歯科健診、3歳児健診、もうすぐ「パパ・ママ学級」、離乳食教室、育児学級等の各種母子保健事業、並びにポリオやBCGなどの予防接種事業を行うと共に、健康教室、健康相談、リハビリ教室、訪問指導を通じて、市民に広く健康づくりに関する知識や情報を提供することを目的としています。

転倒予防教室



教室の状況

今年度から概ね60歳以上を対象に、「転倒予防教室」を開催しております。寝たきりの原因の約17%は骨折によるものですが、その内の85%は転倒が原因と言われております。この教室では転びにくい身体づくりを目指して、重心動揺計を利用した重心等の測定、転倒を予防するための体操、転ばない環境づくりの講話などを行っております。

初回は全4回のコースに延べ72人が参加し教室終了後のアンケートでは、参加者から「立ってズボンがはける様になった」「足下がしっかりしてきた」「足の裏が暖かくなり寝付きが良くなった」「足の浮腫が無くなった」などの声を聞くことが出来ました。半年経った現在でも運動を継続している人が多く、自分の生活の中に運動が習慣化している様です。

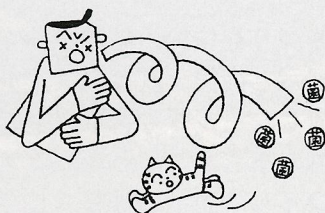
現在第2回目の「転倒予防教室」を開催中で、実施回数も6回として第1回よりも充実した教室になっています。

来年度も実施することで、転倒による骨折が少しでも減少することを期待しています。

目指すは、転ばない街「富士宮」です。

（富士宮市保健センター 理学療法士川村浩二）

長びくせきは
赤信号



平成12年度結核予防リーダー研修会

主旨 静岡県結核予防婦人会の会員、市町村の保健委員及び保健婦（士）等を対象に研修会を開催し、結核検診の重要性と結核に対する正しい知識の普及を図ることを目的とする。

主催 静岡県結核予防婦人会・開催地支部

後援 開催地県健康福祉センター・開催地市・静岡県保健婦（士）会
静岡県保健委員連絡協議会・（財）結核予防会静岡県支部

区 分	東 部 地 区	中 部 地 区	西 部 地 区
日 時	平成13年 2月15日（木） 午後 1時～ 4時00分	平成13年 2月28日（水） 午後 1時30分～ 4時15分	平成13年 3月 8日（木） 午後 1時～ 4時00分
会 場	御殿場市民会館 御殿場市萩原183-1 TEL0550-83-8000	藤枝市生涯学習センター 藤枝市茶町1丁目5-5 TEL054-646-3211	浜北市文化センター 浜北市貴布祢291-1 TEL053-586-5151
講 師	（財）結核予防会顧問 エイズ予防財団理事長 島尾忠男 先生	（財）結核予防会顧問 エイズ予防財団理事長 島尾忠男 先生	（財）結核予防会顧問 エイズ予防財団理事長 島尾忠男 先生
演 題	結核とはどんな病気か？ －感染と発病の起こり方－	結核とはどんな病気か？ －感染と発病の起こり方－	結核とはどんな病気か？ －感染と発病の起こり方－
講 師	静岡瀬名病院 院長 長島康之 先生	（財）しずおか健康長寿財団 理事長 星猛 先生	（財）しずおか健康長寿財団 理事長 星猛 先生
演 題	寝たきりの予防と 老人介護	健康長寿：健康づくりと 生きがいづくり	健康長寿：健康づくりと 生きがいづくり
参加人員	200人	200人	200人
参加団体	静岡県結核予防婦人会員 県・市町村等保健婦（士） 市町村保健委員	静岡県結核予防婦人会員 県・市町村等保健婦（士） 市町村保健委員	静岡県結核予防婦人会員 県・市町村等保健婦（士） 市町村保健委員

* 中部地区は会場の都合で午後 1時30分から始めます。

第 5 回東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会の開催

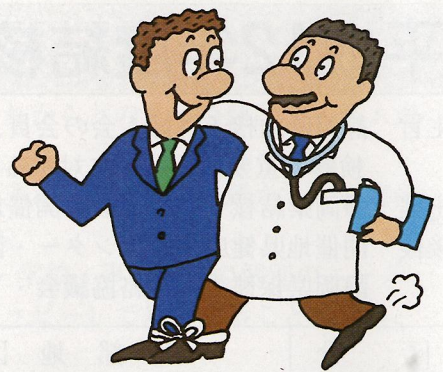


県支部と結核予防婦人会が当番となり、平成12年 9月 18日～19日に焼津市焼津グランドホテルにおいて、第5回東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会を開催しました。

研修会には、東海北陸の各県からと県内の結核予防婦人会等の幹部110名が参加し、結核予防会青木会長より「減らない結核・まだまだ緊急事態」と題した講演があり、さらにシンポジウムとして「複十字シール募金運動の実情と問題点」をテーマに活発な討議があり、大きな成果を上げることができました。

おしらせ

- 1 結核、肺がん関係パネル等の貸出……………無料
パネル、フィルム、シャーカステン、ビデオ
- 2 結核関係図書、パンフレット等の斡旋…財団法人結核予防会発行
図書 『JATA』ブックスシリーズ[結核症の治療]他13冊、
「ウジュアルノート結核シリーズ」全4冊、「メデカルカンファ
レンス」全2冊、その他単行本全16冊
パンフレット 「時には胸にも心配りを」「ひとめでわかる結核
と肺がん」「新版結核読本ー結核とはどんな病気かー等……
- 3 財団法人結核予防会ではホームページを開設しております
ホームページアドレス<http://www.jata.or.jp/>
- 4 静岡県支部のEメールはアドレスtb-shizu@topaz.och.ne.jp



進んで受けよう健康診断

結核検診
肺がん検診
胃がん検診

職員の受章等



勲五等瑞宝章

宮本 唯男



小林 修

静中地区安全運転管理協会
優良運転者表彰



田邊 和祐

結核予防会20年永年勤続表彰

平成12年度採用複十字シール



未来に行けば
それぞれがある
加賀 智哉



巣立ち
石田 隆・石川知市



希望
堀江 豊

複十字シール運動の趣旨

世界保健機関（WHO）が、平成5年4月に結核の非常事態を宣言し、8年が経過した今もなお、結核は再興感染症の一つとして新興感染症とともに注目されております。

現在の日本では、マスコミ報道にも見られるように学校、医療機関、老人関係施設等において結核の集団感染が多発、それも手伝って平成9年には新規登録患者が38年ぶりに増加に転じ、平成10年以降も引き続き増加、それ以外にも多剤耐性結核問題、高齢者における結核患者の増加問題等があり、平成11年7月には厚生大臣より「結核緊急事態宣言」が発せられ、わが国における結核事情は緊急に対応を要しております。

こうした状況のなかで、複十字シール運動は結核や肺がんその他の胸部に関する疾患をなくして健康で明るい社会を作るため、これらの病気に対する知識の啓発と予防意識の高揚を図るとともに、事業資金を造成することを目的とします。

また、国内のみならず世界の結核を撲滅するため、結核が蔓延している途上国への援助も募金の目的とするものです。

おめでとーございます
新年明けまして



編集後記

IT革命…遅ればせながら当支部も21世紀の幕開けに合わせてコンピューターシステムの更新を進め13年度より開始する事になったが、さて、経営、業務を統括する私の希望するデザイン通り描いてもらえるのか期待と不安が半々であります。しかし、業務の省力化に向かっている事は確かな様であります。

私自身は職員に遅れない様60歳の手習いで少しでもなれるようがんばっていますが悪戦苦闘している日々であります。(T・H)

【題字：田中隆：元支部職員】